

愛媛県新居浜市大島地区
地区防災計画



自分の命は自分で守る
自分たちの地域は自分たちで守る
住民同士のつながりと安全・安心な島を目指す

令和4年3月

1 大島地区の概要

(1) 新居浜市位置図



(2) 大島地区位置図



(3) 大島地区の特性

大島地区は、新居浜市の北東約1.5km沖合に位置し、周囲は9.8km、島内の南側に居住地が存在しています。伊予水軍の頭領であった村上義弘生誕の地とも伝えられ、伊予水軍の遺跡が今も残っています。

校区には大島小学校跡地に大島交流センターが、大島公民館跡地に川東福祉センター大島文館が立地されており、災害時には避難所として活用されることとなります。

また、島の南側には大島港が存在し、黒島港と間を市営渡海船が運航しています。

2 地域の概要

(1) 世帯・人口構成及び比率

(令和3年12月現在)

世帯	比率	人口	比率	男性	比率	女性	比率
119	0.2	166	0.1	86	0.2	80	0.1

(2) 避難行動要支援者数

(令和4年3月現在)

対象者数	同意	不同意	その他
40	9	0	31

3 自然特性・地域特性（地域で起こりうる災害）

(1) 被害想定

想定震度	津波浸水深 浸水開始時間	液化化危険度	土砂災害 警戒区域	国領川 洪水浸水	ため池浸水
6強	0.5～3m 6時間後	極めて高い (30<PL)	R：あり Y：あり	なし	なし

(2) 地理的特性（土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域）

自然現象	土石流	急傾斜地の崩壊
区域名	西之町A・大島第一川 明神谷川・宮之谷・清水谷川 古江池北川・古江池南川	西之町A・西之町C・西之町D 宮ノ谷

(3) 想定される災害

災害種別	被災内容	備考
地震	想定震度7（建物被害・堤防波堤・液化化）	
津波	最大想定浸水深3m～5m（地震発生から10分後）	20cmに達する時間
洪水	最大想定浸水深0.5m～3m（想定最大規模）	
土砂災害	土石流・急傾斜地の崩壊	

4 防災の取組状況（予定）

取組時期	取組内容	対象
毎年10月下旬	防災運動会 (救援物資搬送・応急手当・担架搬送・消火訓練 炊出訓練・段ボールベット組立・簡易トイレ組立 新聞スリッパ作成・避難シミュレーション)	地域住民

5 災害時の課題

区分	課題
地震	古い家屋の倒壊 地震により火災が発生して近隣に燃え移る。 住宅密集地での火災 住宅火災から山林へ延焼拡大
水害・土砂	山側からの土砂 大雨による土砂の流出で道が寸断、避難に支障が出る 電話不通、道路寸断、大規模停電発生

6 災害時の現状

区分	現状
地震	大島港への接岸が困難
水害・土砂	安全と思われる場所が少ない
避難所開設運営	ライフラインが弱い。 自宅に留まりたい住民がいる。(避難の遅れ) 避難所が遠く自力で行けない。 避難が長引いた場合の食糧や燃料の確保
自助共助の向上	発電機等の設備のメンテナンスが不十分である。
要支援者の支援	要支援者の移動手段及び要支援者との連絡手段
その他	積極的な避難が少ない。

7 災害時の対策

区分	対策
地震	燃料の備蓄をしておく。
水害・土砂	自主的な避難場所の開設運営
避難所開設運営	発電機等のリスト作成、管理 無線機・発電機の点検を定期的実施する。 備蓄品の確保
自助共助の向上	各自治会の機器のメンテナンス 外部との通信確保 自治会単位での灯油等の備蓄
要支援者の支援	集落ごとの声掛け
その他	広報等を活用した避難広報の実施

8 緊急避難場所及び避難所

施設名		収容人数		使用制限
		緊急避難場所として	避難所として	
大島交流センター	校舎	941	235	地震・風水害 2階以上
	グラウンド	1,760		地震×
川東高齢者福祉センター大島分館		207	207	地震×・風水害 2階以上

9 自主的な緊急避難場所

施設名	受け入れ自治会	使用制限	備考
大島教育会館	宮西自治会	津波・土砂災害×	

10 防災活動計画（5ヶ年計画）

実施内容	年度計画					目標
	R4	R5	R6	R7	R8	
安否確認手段の確立 (自治会)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	世帯名簿を活用し、災害時における安否確認手段を確立する。

※ 上段：実施内容
下段：実施対象